

1章1節 生物の多様性と共通性

①生物の多様性

名前がついている種の数約

①	
---	--

 種である。

生物種の正式な名前⇒

②	
---	--

→地球上に存在する種数は、数千万種とも推定される。

分類

似ている要素から、グループ分けすることを分類という。

生物の分類の基本単位を種という。

種の定義

同地域に分布する生物集団が自然条件下で交配し、子孫を残すならば、それは同一の種とみなす。

1 さまざまな環境と生物の多様性

地球上には森林や草原、湖沼、海、川、空中、土中など、さまざまな環境が存在している。

それぞれの生物が、生育に適した環境で生活している。

例) 哺乳類の移動のための器官の差異

陸上で生活するツキノワグマは、四肢を使って移動する。

海中で生活するバンドウイルカは、ヒレを使って移動する。

空中で生活するアブラコウモリは、翼を使って移動する。

生物がその生育環境に適していることを

③	
---	--

 という。

1章1節 生物の多様性と共通性

②4 生物の共通性

すべての生物に共通する特性には、主に次のようなものがある

1. 細胞をもつ。
2. 代謝を行う。
3. 恒常性をもつ。
4. 生殖をおこなう。

1. 細胞をもつ。

動物も、植物も、大腸菌も細胞からなる。

動物や植物のように、多くの細胞からなる生物を ④ といい、

大腸菌のように、1つの細胞からなる生物を ⑤ という。

全ての細胞は最外層に ⑥ を持ち、

外界と明確に区別される空間を持つ。

2. 代謝を行う。

生物は、生体内で物質を分解したり、結合させたりして、生存に必要な物質をつくりだしている。

生体内で起こる化学反応全体を ⑦ という。

1 章 1 節 生物の多様性と共通性

3. 恒常性をもつ。

生物は、外界の環境が変化しても内部を一定に保とうとする性質を持つ。

この性質を

⑧	
---	--

 という。

4. 生殖をおこなう。

生物は、自らの複製をつくる能力を持つ。

新しい個体を生み出すことを

⑨	
⑩	

 という。
生殖のさい、遺伝情報である

⑩	
---	--

 が子に受け継がれる。

参考 + α ウイルス

構成物質

- | | |
|---|--|
| ⑫ | |
|---|--|

 の殻
- 遺伝物質 ⇒

⑬	
---	--

特徴

自己複製を行わない、他の細胞に依存して増殖する。

細胞構造を持たない。

自分自身で代謝を行わない。